

巻頭言	科学と心の時代。さて、食は……	森枝卓士	1
序章	宗教と食との深いつながり	南直人	9

第I部 食にひそむ信仰

第1章	諸民族の信仰と食	山田仁史	18	
	はじめに	食物の起源	日常食の作法	儀礼における飲食
	飲食と禁忌忌避	飲食とアイデンティティ	おわりに	
第2章	先住民族の「世界知」と食		42	
	——北西アマゾンの場合	武井秀夫		
	はじめに	北西アマゾンと先住民トゥユカ		
	トゥユカ世界の生成と統御	「世界知」という概念		
	トゥユカの食と性的な力	トゥユカの世界で「食べる」こと		
	集団儀礼	食物規制と呪文	呪文Ⅱ知識と世界知	

第II部 西方起源の「三宗教」

第1章	ユダヤ教——神との契約	市川裕	68
	序——ラビ・ユダヤ教の成立と特徴		
	食の儀礼化における六つの主題	結語	
第2章	キリスト教——聖体としてのパン	寺田勇文	90
	はじめに	キリスト教と食物のタブー	「希望の食卓」
	聖体拝領	拝領のしかた	聖体のつくられ方
	プロテスタントの聖餐式	日本占領下のフィリピンの	おわりに
第3章	イスラーム——コーランとハディースから	黒木英充	109
	はじめに	イスラームとは	
	コーランとハディースのなかの食	おわりに——最近の二つの潮流	

第Ⅲ部 インドから東へ

第1章	インド——ヒンドゥー教とジャイナ教	小磯千尋	134	
はじめに	ヒンドゥー教	ヒンドゥー教と食		
	ジャイナ教における食	断食	おわりに	
第2章	「功德」を食へる人びと			
	——東南アジア仏教徒の宗教実践と食	林行夫	155	
	食と身体の知	上座仏教	身体と経典	
	出家者の食作法	在家者の食事	祭事での饗宴	
	功德と犠牲	人を養う食と功德		
第3章	日本——道元と親鸞	原田信男	177	
はじめに	——神道と仏教	日本仏教の特質		
	道元の立場	——修行としての食	親鸞の立場	——凡夫の救済
	おわりに	——肉食をめぐる二つの立場		

総括 食すること、信仰すること

——人間にとつての根源的な二つの営み	南直人	195
宗教と食	五つの論点からの整理	
	さらに論を深めるために	展望

総合討論

ユダヤ教の食の戒律	聖体拝領とカニバリズム		
イスラームにおける豚と酒	食の戒律の強弱	神への捧げもの	
共食・共同調理がもつ意味	食へるための出家	土着の信仰との共存	
日本古代の肉食禁止と豚	「世界知」	脳科学と宗教	
宗教と食の快楽	食のタブーと戒律	ベジタリアンと禁欲	
食と宗教とジェンダー	グローバル化のもとで	食と宗教の現代	

「宗教と食」を考える文献

256

あとがき

南直人

262

執筆者紹介

271